



作曲家

**多田 武彦**

あれから四十年

昭和22年旧制大阪高等学校に入ってもなく、1年先輩の田中信昭さん(現・東混指揮者)等に誘われるまま男声合唱団に入ったが、実のところ、コーラスの良さは何も判らなかった。昭和24年になると、学制改革のため、われわれ三回生だけが残し、部活動も出来なくなった。4月中旬、コーラス部の来翰箱に「関学グリー五十周年記念演奏会」の招待状が投函されていた。

十年ごとに同じことを書いているが、このときのシューベルトの「夜」をきいて、やっと男声合唱の醍醐味が判ったのだから、もしこの日の演奏会に行っていなければ「柳河風俗詩」も「雪明りの路」も出現しなかつただろう。

人と人との出会いだけでなく、人と音楽、人と花木、人と山々、などなど、あらゆる出会いは尊い。当時18才の私は、今年58才。これら出会いの尊さを、しみじみかみしめる年令になった。今の世が複雑になればなるほど、この原点を忘れないように、生きることになっている。

関西学院グリークラブの10年に1度のイベントは、私にとっては、一寸こくのある銘酒に似て、身体のすみずみにジーンとくる。

新月会  
男声合唱組曲  
中 勘助の詩から

絵日傘  
椿  
四十雀  
ほほじろの声  
かもめ  
ふり売り  
追羽根

作 詩／中 勘助  
作 曲／多田 武彦  
指 揮／亀井清一郎